

ごみから作ったカメラで 環境共育

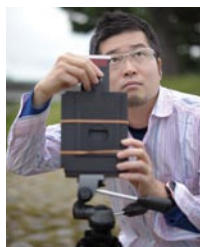
アマガエルフォト おかべ たっぺい 岡部 達平

写真：京都新聞提供

京都市の小・中学校学生に、廃品利用の手作りカメラで撮影した太陽の写真を見せようことから、ごみの秘めたる可能性、物を大切に作る心、9秒間の太陽エネルギーの力強さ、太陽の美、を伝える環境教育を行って、5年になります。

初めて環境教育を行ったきっかけは、小学一年生の時の担任の先生からのオファーでした。「ごみから作ったカメラでも、綺麗な写真が撮影できる、ごみは捨ててしまうと終わりだけど、工夫すれば、ごみも大きな可能性を持っています。子ども達に、ごみの可能性について話して下さい」と言う電話が突然かかってきたのです。

小・中学校に授業に何うと、どの学校でも子ども達は、「何故ごみからカメラが作れるの?」「本当に写せるの?」と興味津々に質問してきます。その答えは、とても簡単です。カメラとは光を記録する機械です。「光を集める装置」「光を貯める空間」「光を記録する物」この3つの条件が揃えば、カメラは完成です。この光を集める装置こそが、現代のカメラではレンズであり、私の愛機ではピンホール（針穴）なのです。子ども達も、一般的なカメラとピンホールカメラで撮り比べた後に質問してみると、90%以上の子ども達が、一般的なカメラを欲しがります。子ども達は、素直に邪魔くさいカメラは嫌だと大きな声で思いを訴えます。しかしながら、私の愛する太陽は、燦々と輝いています。非常に強力な光を宿しています。ですから、一般的なカメラではその真の姿を写すことは不可能なのです。太陽はごみから作った、このカメラでしか撮影できないのです。



写真を撮る岡部氏

■「1秒」の選択

私は太陽を心から愛し、ひたすら太陽の真実の姿を撮影し続ける写真家です。私のカメラのレンズはジュースを飲み干した後の空き缶にまち針で小さな穴をあ

けただけのシンプルな構造です。さらに、シャッターはフィルムの空き箱からできています。そう、私の愛機は、「ごみから作ったピンホールカメラ」です。テレビCMで紹介されている一眼レフカメラ、

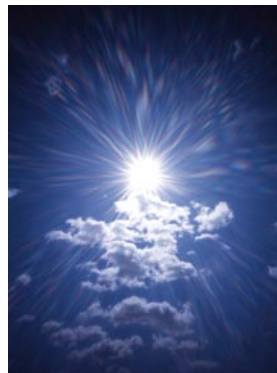
携帯電話に装備されているカメラ、これら一般的なカメラに付いているレンズは、びかびかに磨かれたガラスや非球面ガラスを幾重にも組み合わせています。こういったレンズは光を集める力が強く、私のカメラは非常に微力です。

実際の撮影技術も、何年も修行が必要な程難しくはありません。しかし、太陽を撮影する場合、露光時間は「1秒間」が必要です。撮影するカメラマンが、「1秒間」待つことができるかにかかっています。一般的なカメラは「125分の1秒」です。「1秒間」という数字だけを見ると大した時間ではありませんが、この1秒には、さまざまな面倒と手間が潜んでいます。例えば、撮影露光時間が「125分の1秒」であれば、カメラは手で持って撮影が可能です。しかし、たかが「1秒間」でも、手持ちで撮影すると、何が写っているのか全く分からないぐらいに被写体はブレてしまいます。ですから、常に重たい三脚を持ちあるかなければなりません。ブレやすいということは、振動にも気を配らなければなりません。撮影中は息を止めて、優しく丁寧にカメラを操作しなければなりません。撮影しているすぐ隣を自動車がびゅんびゅん走ってしまうと、路面を通じてカメラに振動が伝わり、ブレた写真になってしまいます。ごみからカメラを作ることも、撮影することも、理論的には非常に簡単です。しかし、実際撮影するとなると、撮影する人間には、さまざまな手間と面倒を我慢する心構えが求められますし、繊細な心配りが必要となります。しかし、それで撮らせていただいた太陽は、断じて人間の目では直視することのできない真実の姿を見せてくれるのです。

現代社会では、よりスピーディーに、より便利に、より簡単に、がカメラ以外にも流行っています。でも、何か、便利になったことで、失われていくものも実は多くなっているのではないのでしょうか。

■「光を集める」「光を貯める」「光を記録する」

約400年前に、ガリレオ・ガリレイはピンホールカメラと同じ原理を活用して、絵を描いたといわれています。今も、400年前も、「光を集める」「光を貯める」「光を記録する」の三拍子が揃えば写真を写すことは可能なのです。例えば、簡単なカメラの作り方を披露します。クッキーの空き缶に小さな穴をあけ、空き缶の内側を真っ黒に塗装し、穴をあけた正反対の側面にフィルムをセットすれば、皆さんもごみから作ったカメラを手に入れることができます。牛乳パックや靴の箱でも作ることができます。さらに、牛乳パックなど、カメラを作る為に使った材料が撮影後リサイクル可能な様に工夫できればとても素敵です。是非、光を「集める」「貯める」「記録する」の3つを揃えてカメラを自作してみてください。



ごみから作ったカメラで撮影した太陽
©岡部達平